１３．越後・米沢街道―黒沢峠・大里峠・鷹ノ巣峠越

選定箇所：黒沢峠（山形県小国町）、大里峠（山形県小国町・新潟県関川村）・榎峠・鷹ノ巣峠越（新潟県関川村）

概要：越後街道は新潟と米沢をつなぐ街道で、伊達稙宗の頃に整備されたと言われている。江戸時代に山形県川西町小松と新潟県関川村下関の間約 60km が１３の峠を越えて結ばれたことから、「十三峠」とも呼ばれる。米沢城下から大里峠までは約十五里あり、越後岩船郡に領地を預かる米沢藩にとっては、政治・経済・軍事において重要な街道であり、後には、鉱山で採掘された鉱石を運ぶ要路となった。玉川集落から山道に入って５００ｍほど行くと、安政２年（１８５５）に建立された供養塔があり、２km ほど進むと、伊藤久左エ門が旅人を遭難から救うため三代に渡り営んだ茶屋跡が見られる。

黒沢峠に至る道筋には起伏のある斜面が続き、明治期に歩いたイザベラバードは『日本奥地紀行』の中で、ごつごつした石の階段を上ったと記している。この敷石普請は米沢藩によって行われ、現在でも頂上付近にその姿を残している。頂上の標高は４１８m、敷石の他に、敷石を切り出す際のタガネ跡のついた石切場、そして茶屋跡が現在も残っている。鷹ノ巣峠の庚申塔や馬頭観音などは当時の面影を伝えている。

黒沢峠

鷹ノ巣峠　熊坂（関川村）